

1 連携型入試

I 中高一貫教育の制度と本県の取組経過

1 中高一貫教育の制度

中高一貫教育制度は、これまでの中学校・高等学校に加えて、生徒や保護者が中高一貫教育も選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を図るものであり、平成11年4月から制度化されている。

設置校数	平成16年度	153校	⇒	平成22年度	403校
------	--------	------	---	--------	------

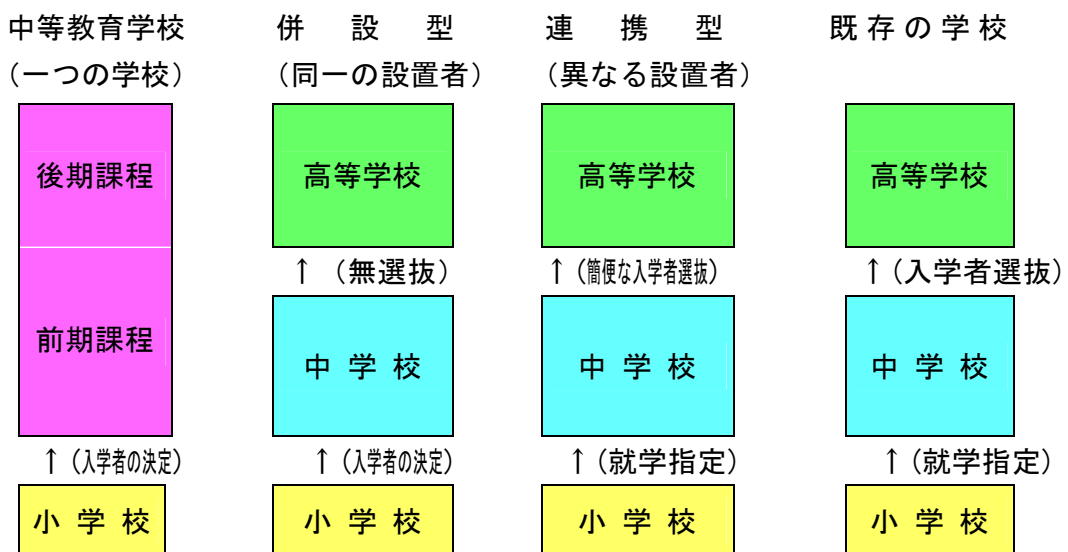
(1) 中高一貫教育校の特色

中学校と高等学校の6年間で接続し、6年間の学校生活の中で計画的・継続的な教育課程を展開することにより、生徒の個性や創造性を伸ばします。

- ・安定した環境の中で、6年間の学校生活を送ることができます。
- ・6年間にわたり生徒を把握することができ、個性の伸長や優れた才能を発見できます。
- ・学年の異なる生徒同士が共通の活動を通し社会性や豊かな人間性を育成できます。

(2) 中高一貫教育校の形態

中等教育学校: 1つの学校として、6年間一体的に中高一貫教育を行うもの。
併設型中学校・高等学校: 同一の設置者による中学校と高等学校を、高等学校への入学者選抜を行わずに接続するもの。中等教育学校よりも緩やかな中高一貫の形態である。
連携型中学校・高等学校: 既存の市町村立の中学校と都道府県立の高等学校が教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深める形で中高一貫教育を行うもの。



2 本県の取組経過

平成10年 文部省から「中高一貫教育実践研究」の委嘱

- ①高校入試の影響を受けず、生徒がゆとりある安定的な学校生活を送ることを可能にする。
- ②6年間の計画的、継続的な指導により、基礎基本に係る学力の定着や個性の伸長を図る。
- ③生徒や保護者の選択の幅を拡大して、中等教育のより一層の多様化を推進する。

平成12年3月 「岩手県中高一貫教育研究会議の報告」

連携型中高一貫教育については実現の可能性はあるが、中等教育学校、併設型中高一貫教育は、エリート化が懸念されることからなお慎重な検討を要する。

平成13年～ 「軽米地域連携型中高一貫教育の導入」

軽米高校、軽米中学校、笹渡中学校、小軽米中学校、晴山中学校、5校の連携

平成14年～ 「葛巻地域連携型中高一貫教育の導入」

葛巻高校、葛巻中学校、小屋瀬中学校、江刈中学校、4校の連携

平成15年 7月 「岩手県中高一貫教育検討委員会の設置」

平成15年12月 「岩手県中高一貫教育検討委員会の報告」

- ①県民への十分な周知と合意形成
- ②準備期間の十分な確保
- ③中等教育の充実

平成17年 7月 「県立高等学校新整備計画（後期計画）成案」

平成17年 9月 「岩手県新しいタイプの学校に関する検討委員会の設置」

平成18年 2月 「岩手県新しいタイプの学校に関する検討委員会の報告」

平成19年 5月 「岩手県立一関第一高等学校中高一貫教育検討委員会の設置」

平成19年11月 「岩手県立一関第一高等学校中高一貫教育検討委員会からの報告」

- ①設置の必要性
- ②設置の理念
- ③学校規模
- ④男女定員
- ⑤通学区域
- ⑥出願資格
- ⑦入学者選抜方法に関する考え方

平成20年 1月 「一関第一高等学校に併設する県立中学校の校名等検討委員会設置」

平成20年 4月 「県立中学校開設準備担当の設置」

平成21年 4月 「岩手県立一関第一高等学校附属中学校開校式・入学式」

3 実践の成果

＜連携型＞

(1) 6年間を通じた生徒の目的意識を高めるための指導方法の構築

- ① 授業交流（中高教員による TT の授業）の継続的实施により、中高教員の指導力が向上し、生徒の基礎的・基本的内容の定着が図られた。また、生徒にとっては、段差の低い中高のスムーズな接続が可能になった。
- ② 中学校において、中高6年間及び高校卒業後の進路を見通した進路指導が行われるようになり、生徒が高校生活や高校卒業後の進路について目標をもって入学するようになった。
- ③ 大学への進学実績の向上に伴い、連携型高校に進学して大学を目指そうとする生徒が増えた。
- ④ 中高教員の密な情報交換、連携した対応などにより、中高生活指導の充実が一層図られ、学校不適應の問題をはじめ、生徒指導上の問題が減少した。

(2) 特色ある教育課程の編成の在り方の検討

- ① 中高6年間を通して、地域学習をテーマとした特色ある学習活動を、生徒の学習レベルに応じて、計画的・継続的に取り組むことができた。

(3) 中高一貫教育校における学校運営の改善充実

- ① 学校、地域、PTA、教育委員会の代表者による協議会や、中高全教員参加による部会等を開催することにより、学校運営においても、それぞれの意向を踏まえた連携を図ることが可能となった。
- ② 定期的な広報誌を町内全戸に配付することで、住民への周知・理解を図り、そのことにより、保護者、地域住民の協力を得ながら中高一貫教育の取組みを進めることができた。さらには、学校運営の活性化につながっている。

II 中高一貫教育の入試の概要

1 現状

<連携型>

連携高校	連携中学校	導入年度	現行の連携型入試方法	実施期日
岩手県立 軽米高校	軽米町立の4中学校 (軽米中、笹渡中、小 軽米中、晴山中)	H13	基礎学力の確認・面接	1月下旬(推薦入 学者選抜と同日)
岩手県立 葛巻高校	葛巻町立の3中学校 (葛巻中、小屋瀬中、 江刈中)	H14	面接・作文	

<併設型>

併設型中学校から併設型高校へ進学する内進生については、「無選抜」を基本とする。

2 課題

<連携型>

- (1) 県内高等学校受検生が中学校段階で身につけるべき学習内容の到達度を確認する「入学者選抜学力検査問題」を活用し、中高6年間の前期3年間の学習定着度を把握し、高校進学後の指導のための有効な資料とする必要がある。
- (2) 中学校において、連携型入学者選抜受検生と一般入学者選抜受検生に対して、一体的な指導を行う必要がある。

3 平成24年度入学者選抜に向けた見直しの方向性(連携型入学者選抜)

- (1) 連携型入学者選抜を一般入学者選抜と同日に実施し、当該年の入学者選抜学力検査問題を活用し基礎学力の調査を実施する。
- (2) 連携型入学者選抜の合格者の決定及び発表に係る日程を、一般入学者選抜と同じ日程で実施する。

	平成23年度入学者選抜	平成24年度入学者選抜
【出願】	1月上旬 (推薦入学者選抜と同日)	1月上旬 (推薦入学者選抜と同日)
【検査日】	1月下旬 (推薦入学者選抜と同日)	3月上旬 (一般入学者選抜と同日) (学力検査問題を活用し、基礎学力の調査を行う)
【合格の通知】	2月上旬 (推薦入学者選抜の合格通知と同日)	3月中旬 (一般入学者選抜の合格通知と同日)
【合格発表】	3月中旬 (一般入学者選抜の合格発表と同日)	3月中旬 (一般入学者選抜の合格発表と同日)

4 その他

<連携型入学者選抜の状況(軽米高校、葛巻高校)>

軽米高校	H23 年度	H22 年度	H21 年度	H20 年度	H19 年度
募集定員	120	120	120	120	120
合格者数	81	80	103	101	107
連携中学校卒業生数	110	119	124	131	126
連携型合格者数	71	75	99	96	104
連携型進学割合	64.5%	63.0%	79.8%	73.3%	82.5%

葛巻高校	H23 年度	H22 年度	H21 年度	H20 年度	H19 年度
募集定員	80	80	80	80	80
合格者数	58	50	56	57	60
連携中学校卒業生数	65	67	77	75	92
連携型合格者数	50	42	48	53	59
連携型進学割合	76.9%	62.7%	62.3%	70.7%	64.1%

<併設型中学校の状況(一関一高附属中学校)>

在籍者数	1 年生	2 年生	3 年生	計
男子	40	40	39	119
女子	40	40	39	119
計	80	80	78	238

出身小学校	1 年生	2 年生	3 年生	計
旧一関教育事務所管内	47(58.8%)	47(58.8%)	47(59.0%)	141(59.2%)
旧奥州教育事務所管内	16(20.0%)	17(21.3%)	17(21.8%)	50(21.0%)
その他	17(21.3%)	16(20.0%)	15(19.2%)	48(20.2%)
計	80	80	78	238